土ドラ 10周年

再生のウズメ



写真① ニコ・スミス（前田美波里）

第 7 話　11 月 14 日(土)よる11時 40分

昔だったらドラマには出ていなかった!?「頑張る自分を褒めたい」

前田美波里、新たな挑戦の理由は「先が短いから(笑)」!?

人と違うことで傷ついた過去と、出会いの大切さ!

イモトアヤコ主演の土ドラ『再生のウズメ』。(東海テレビ・フジテレビ系　毎週土曜日 23 時 40 分放送)
40 歳の元子役・田村ウズメが、12 年間のひきこもり生活を経て、白洲迅演じる便利屋「救ちゃん」の興梠と出会い、「何歳からでも人生はやり直せる」という希望と再生のメッセージを届けるヒューマンドラマ。

先週放送された第6話では、いつもみんなを明るく盛り上げる「救ちゃん」メンバーの鳩山繁則(相島一之)の弟がひとりで亡くなっていたという過去が明らかに。大事な人の死を乗り越える遺された人間の物語に、SNS では、「側から見たら可哀想でろくでもないと思われるのかもしれないけど、どこかで誰かの役に立ってたり支えになってたりして、その人なりの人生を歩んできたんだよね」と、弟の人生に思いを寄せる声が。
さらに、「大切な人のいるうちに後悔ないよう一緒にいよう、会いに行こうと思えた回でした」と、家族や大切な人との関係を改めて考えさせられたという感想も寄せられた。

そんな鳩山の物語に触れたウズメ。今週放送の第7話では家族の絆の再生がテーマになる。母・咲子(市毛良枝)の古希祝いの会をきっかけに 9 年ぶりに弟・田村尊(川原一馬)と会うことを決意したウズメ。ところが、古希祝いはある事情で突然延期に。しかし、弟から救ちゃんにワンオペ救済の依頼が入り、ウズメは甥っ子の梓馬(北尾いくと)と初対面することになる。

そんな第 7 話の放送を前に、便利屋「救ちゃん」をそばで見守り、重いテーマでも救いとなるやわらかな風を感じさせる穏やかなマダム、ニコ・スミスを演じる**前田美波里**にインタビュー！

誰のことも否定せず、太陽のように温かく包み込むニコというキャラクターに込めた思いや、ウズメや興梠との意外な共通点、表現者としての歩みを語ってもらった。

●「太陽のように明るく、寄り添っていたい」 ニコという存在に込めた思い



写真② 鮫島奏（柴野晃太朗）
ニコ・スミス（前田美波里）

周りの皆さんの空気ができてからニコさんになっていく形で良いんだろうなと改めて思いました。料理でいえば、塩や胡椒が足りなければ足して、濃ければ少し薄める。そんなふうに、周りの状況に合わせて存在していたいんです。悲しくなったり、寂しくなったりしている人には、私を見てほしいなと思いますし、なるべく太陽のように明るく接してあげたいですね！

●「ウズメや興梠と通じるところがある」人と違うことで傷ついた過去

ウズメは真面目な人ですね。だから、傷つくことも大きいんでしょうね。興梠も一度、自分自身もひきこもりになるほど落ち込んでいますから。そういう意味では、2人には通じるものがあるのかもしれません。私自身も、小さい頃はハーフとして生まれたことで、周りの人から指をさされたりすることがありました。目立っていたんでしょうね。そういう経験もありますから、ウズメや興梠の抱える思いには、意外と通じるところがあります。



写真③ ニコ・スミス（前田美波里）

●戸惑いながらも新たな挑戦を続ける理由「もう先が短いから（笑）」



写真④ ニコ・スミス（前田美波里）
大河内順子（大島蓉子）

昔だったらドラマには出ていなかったと思います。私は本当に不器用で、セリフをすぐに覚えられるタイプではないんです。今は必死です（笑）。

舞台の場合は、必ず 1 か月ほど稽古期間をいただき、最初から最後まである台本をしっかり勉強してから稽古に入ります。ミュージカルなら、作品によっては 2 か月ほどかけることもあります。歌は歌、お芝居はお芝居、さらに振り付けもある。そうした準備の仕方に慣れているから、ドラマの撮影は、どんなに準備してもなかなか対応できないんです。

そんな私がドラマに出るようになったのだから、「新しい挑戦をしている、頑張っているぞ」って自分を褒めたいくらいですよ。きっかけは、もう先が短いから（笑）。

●「お芝居の楽しさを教えてもらいました」

表現者としての転機となった恩師との出会い

自分の転機となったのは、演出家の木村光一先生との出会いです。文学座にいらした先生は、私の良さや生き方を見つめ、それを生かした作品を手がけてくださいました。当時、私はハーフとして生きてきた経験を作品に反映させたいと思っていたんです。日本で初めてトウシューズを履いてクラシックバレエを踊った高木徳子さんを題材にした作品や、ビリー・ホリデーの『奇妙な果実』など、私にしかできない役に取り組む機会をいただきました。
また、ミュージカル出身の私に、お芝居を基礎から教えてくださったのも先生です。
歌や踊りを生かすためにも、まず芝居が大切だと学びました。お芝居の楽しさを教えていただきました。

●「何でも右足から」がマイルール！舞台に立つ前のゲン担ぎ

舞台では、自分なりのルールがあるんです。舞台袖から出るときは右足から出るとか、手袋でもストッキングでも、何でも右足から履くとか。なぜ右からなのか、自分でもよく分からないんですけど、左足からだと失敗する気がしていました。若い頃は、早着替えのときは衣装さんに「右からお願いします！」と頼んでいたんです（笑）。
でも今は、左でも右でも全然平気になりました。年を取ったせいかしら（笑）。

●「ほんの少しの冒険心を持って、人と会ってほしい」出会いの大切さ

この作品では誰もが抱えているような悩みに対して、必ずしも答えが出るわけではありません。でも、人と話し合ったり、自分の話を聞いてもらったりすることで、きっといい方向に向かっていくんじゃないかなと思います。ほんの少しでいいので、冒険心を持って人と会ってほしいですね。誰かと出会うことで、自分がどこへ向かっていくのかも変わってくるかもしれません。その一歩を踏み出すことが、とても大切なんじゃないでしょうか。



写真⑤ 左から 鳩山繁則（相島一之）
鮫島奏（柴野晃太朗）
田村ウズメ（イモトアヤコ）
小田切舞（大原梓）
興梠侑誠（白洲迅）

＊＊

※救ちゃんだより※

「レンタルコスチューム・ニコ」を営み、便利屋「救ちゃん」のお助けをするニコを演じる前田美波里に、「もし便利屋『救ちゃん』に依頼するなら？」と質問！思わず想像が膨らむ、前田美波里の“楽しみすぎる依頼“とは？さらに、人と接する流儀も聞きました！皆さんの参考になるかも！

●共感の嵐！？依頼するならイケメン興梠と銀座でお買い物！

「なんでも話してしまいそうで、ちょっと怖い（笑）」



写真⑥田村ウズメ（イモトアヤコ）
興梠侑誠（白洲迅）

「救ちゃん」にお願いするとしたら、興梠さんはいい男ですし、銀座などで一緒にお買い物に行ってほしいですね。今は何でもネットで注文して届く時代ですが、そういうことではなく、あんなにかっこいい人と腕を組んで歩いてみたいなと思いました(笑)。おしゃべりも上手ですし、気配りもできる。ふと気づくと、自分の方からうっかり近づいていってしまいそうなところがあります。恋をしてしまうというより、何でも話してしまいそうでちょっと怖いですね(笑)。

「せっかくの出会いを、嫌な印象で終わらせたくない」

前田美波里が大切にする出会い

初めて会う方とは、まずその人のいいところを探すようにしています。合わないからといって、拒絶することは一切ありません。例えば、1 か月ほど一緒にお仕事をすることもあれば、ほんの少し顔を合わせるだけで終わってしまう出会いもありますよね。どんな出会いも大切ですし、せっかくなら嫌な印象のまま終わらせたくない。
自分では好きになれないなと思う相手でも、意外といいところは見つかるものなんです。
そうやって、その人のいいところに目を向けるようにしています。



写真⑦ 鮫島奏（柴野晃太朗）、ニコ・スミス（前田美波里）

＊＊

＜第７話 見どころ＞

●妻の入院でワンオペ育児に奮闘の父――

親も大変かもしれないけど、子どもだって思うところはある？

便利屋・救ちゃんで働くようになり、自信を取り戻しつつあるウズメ（イモトアヤコ）。そんなウズメにとって、弟・尊（川原一馬）との再会は大きな緊張を伴うものだった。

９ 年前、ひきこもり状態だったウズメは、尊の結婚式を欠席。それ以来、弟の妻や子どもたちにも一度も会えていない。今さらどんな顔をして会えばいいのか……。複雑な思いを抱えながらも、弟家族が企画した母・咲子（市毛良枝）の古希祝いには出席しようと決意する。ところが、その古希祝いはある事情で延期になってしまい……。

そんな中、便利屋「救ちゃん」の興梠（白洲迅）のもとに、尊から緊急の依頼が舞い込む。妻の入院で急きょワンオペ状態になった尊から、息子・梓馬（北尾いくと）が出場する柔道大会の撮影を頼まれたのだ。会場についてみると、想像以上にワンオペに苦戦している尊に苦笑いする興梠。そんな中、尊が娘の木花（石塚七菜子）と会場を離れなければいけなくなってしまい……。



写真⑧ 左から 梓馬（北尾いくと）、田村尊（川原一馬）、木花（石塚七菜子）



写真⑨ 興梠侑誠（白洲迅）、梓馬（北尾いくと）、田村ウズメ（イモトアヤコ）

●我慢する弟――――「僕は大丈夫」その言葉の裏にある思いとは？

興梠に急に呼び出されたウズメは、そうとは知らず甥の梓馬と初対面することに。興梠にはかられたと思いつつ、梓馬のために懸命に応援するウズメ。そんな中、興梠が急用で会場を離れようとする。尊と再会したくないウズメは引き留めようとするが、そんな大人たちを見て梓馬が「僕はひとりでも大丈夫」と言う。しかし、梓馬の表情はどこか寂しそうで……。離れていた時間を越えて、少しずつつながり直していく家族の姿を描く第７話。



写真⑩ 田村ウズメ（イモトアヤコ）



写真⑪ 田村尊（川原一馬）、田村ウズメ（イモトアヤコ）

［第７話　ワンオペと再会］

４０ 歳の元ひきこもり・ウズメ（イモトアヤコ）にとって、弟・尊（川原一馬）との再会は緊張するものだった。尊の結婚式の時は絶賛引きこもり中で欠席。妻子にもいまだ挨拶すらしたことがない。いまさら、どんな顔をして会えばいいのか…。そんな中、便利屋「救ちゃん」の興梠（白洲迅）に尊から緊急の頼みごとが舞い込んでくる。尊の息子・梓馬（北尾いくと）が出場する柔道大会のカメラ撮影を頼まれたのだった。妻の入院で急遽ワンオペ状態になり手が回らない様子の尊。さらに娘の木花（石塚七菜子）の買い物にまで付き合わされることになり、会場を抜けねばならなくなる。困った様子の父を見て梓馬は「僕は大丈夫」と言うが…。

そんな梓馬を見た興梠はウズメを呼び出すことを思いつき…。



写真⑫　田村尊（川原一馬）



写真⑬　左から　田村尊（川原一馬）、木花（石塚七菜子）、興梠侑誠（白洲迅）



写真⑭　梓馬（北尾いくと）



写真⑮　左から　田村ウズメ（イモトアヤコ）、興梠侑誠（白洲迅）
梓馬（北尾いくと）、田村尊（川原一馬）

放送概要

【タイトル】	土ドラ『再生のウズメ』
【放送時間】	2026 年 10 月 3 日(土)～12 月 5 日(土)予定＜全 10 話＞ 毎週土曜日 23 時 40 分～ 東海テレビ・フジテレビ系全国ネット
【出演】	イモトアヤコ 白洲迅 大原梓 柴野晃太朗 / 前田美波里 / 黒川智花 和田聰宏 /相島一之 菅原大吉 市毛良枝
【企画】	稲吉 豊(東海テレビ) 伊藤 真保(東海テレビ)
【原作】	天堂 きりん『再生のウズメ』（祥伝社 FEEL COMICS）
【脚本】	鎌田 智恵
【音楽】	鈴木 ヤスヨシ
【主題歌】	MAZZEL 「Touch」(ユニバーサル ミュージック)
【オープニングテーマ】	レトロリロン「Dear」(ユニバーサル ミュージック)
【演出】	加治屋 彰人
【プロデューサー】	松本 圭右(東海テレビ) / 河角 直樹(東海テレビ) 古林 都子(The icon) / 渋谷 未来(The icon)
【 制作 】	東海テレビ / The icon

本件に関する問い合わせ先

東海テレビ 東京編成部　伊藤光輝　電話 03(3503)1391
メディアマーケティング部　角 あかり　電話 052(954)1131